

## 平成 30 年度プロジェクト研究実績報告書

【研究課題名】	地域包括ケアにおける民生委員の役割と連携の在り方に関する研究
【研究代表者】	葛西 好美（東京情報大学・准教授）
【研究分担者】	川口 孝泰（東京情報大学・教授） 吉岡 洋治（東京情報大学・教授） 豊増 佳子（東京情報大学・講師） 大石 朋子（東京情報大学・講師） 伊藤 美香（東京情報大学・助教） 伊藤 嘉章（東京情報大学・助教）
【研究の目的】	<p>高齢化対策として、地域包括ケアによる予防重視型システムへの転換が進められている。しかし、地域包括支援センター（以下、センターとする）の業務は複雑で必ずしも明確ではなく、何らかの疾患や健康問題を抱えている住民に対する、民生委員と地域包括支援センターによる支援やその効果の明確化が求められている。本研究は、センターと民生委員との連携の実態を明らかにすることを目的に、地域住民の生活や健康の課題を解決するための民生委員の役割と連携の方略を考察した。</p>
【研究報告】	<p>1. <b>方法</b>：研究協力の同意が得られた、大学と連携している地域のセンターに所属している職員と民生委員を対象とした。センター職員と民生委員が連携して対応した相談事例の活動について、半構造的インタビュー調査を行い、質的分析を行った。</p> <p>2. <b>結果および考察</b>：センター職員および民生委員が連携した事例は 8 事例であった。</p> <p>民生委員は、自らの役割が地区住民の見守りであると認識し、住民の健康問題や介護保険申請の必要性、自分だけでは判断できない問題が生じると、民生委員同士で相談し合いながら、センターに相談し対応の依頼をしていた。一方、センター職員は、民生委員と日頃からコミュニケーションをとるように心掛け、情報共有をしながら、民生委員からの住民の対応依頼を受けると、相談に関する対応や介護支援、介護保険申請等をすぐに行っていた。また、センター職員は、住民の問題が解決すると、民生委員が在宅生活の見守りを継続できるよう引き継いでいた。さらに、民生委員とセンター職員は自らの役割を見出しながら、それぞれの役割を理解し合い、連携していることが示唆された。</p> <p>地域包括ケアを推進し、地域住民の生活や健康の課題を解決するためには、民生委員とセンター職員との密なコミュニケーションの場づくりや、民生委員による見守りとセンター職員との連携に関するネットワークの「見える化」のしくみをつくることが重要である。</p>
【成果の公表】	<p>対象者の人権擁護・個人情報保護の配慮を行い、学会および論文の発表を予定している。</p>
【連携先・総評】	<p>四街道市民生委員・児童委員協議会より、地域住民の健康問題のより効果的な解決のために、民生委員の役割の明確化は重要であり、自分たちの活動をより多くの人に知ってもらいたいとの評価をいただいた。</p>